

令和4年度 1人1台端末の活用による実践事例

学 校 名		岡山県立津山商業高等学校		
実践者等		伊藤 俊輔	実践日 令和4年7月1日	
実践場面 (教科・科目(単元名)、学校行事等)		公民・現代社会(選挙のしくみと課題)		
対象生徒(学年等)		地域ビジネス科3年		
育成を目指す資質・能力		☐ 知識・技能 ☒ 思考力・判断力・表現力等 ☒ 学びに向かう力・人間性等		
分類	授 業 中	☒ クラウドやアプリの活用 ☐ デジタルデータの保存 ☒ 思考やデータの可視化 ☐ データの共有や共同編集 ☐ 対話を充実させる活用 ☒ 思考を促す活用 ☐ 表現を充実させる活用 ☐ 課題のやり取りと評価の支援 ☐ 効率化や省力化 ☐ その他()		
		家庭学習	☐ 振り返り ☐ 探究 ☐ 反転学習 ☒ 補習・定着	
		実践の内容		
		【授業】 (1) 前時の復習 前時のワークシートで記入した9つの政党を確認し、そのほか今回の参議院選挙比例代表で投票ができる6つの政党、計15の政党について答える。また、なぜ若者の政治参加が叫ばれているのか、投票率等データを読み解くとともに、投票へ行くことを呼びかけるVOICE PROJECTの動画を観る。		
(2) 選挙の争点について考える 気になる選挙の争点トピックについて、3つの視点から投票し、一番多かったトピックに関わる各政党の意見について、ワークシートに記入する。その際、「世界中の困っている人」「日本の困っている人」「私」という視点から、Formsでトピックを選択し、最も多かったトピックに関わる各政党の意見をそれぞれワークシートに記入する。				
(3) 読売のVOTE MATCHで、各争点に関する自分の意見を答え、どの政党と意見が近い参考にした上で、自分がどの政党に比例代表で投票するかを考える。				
(4) ワークシートに振り返りを記入し、気付きをまとめる。				
【本時と家庭学習との連動】 (本時前) 前時で学んだ比例代表で投票できる15の政党について、気になる政党があれば調べておく。				
(本時後) 他のVote MATCHについても、参考程度に行ってみる。 また、気になる政党についてはマニフェストを確認し、争点についての実際の意見に触れる。				

